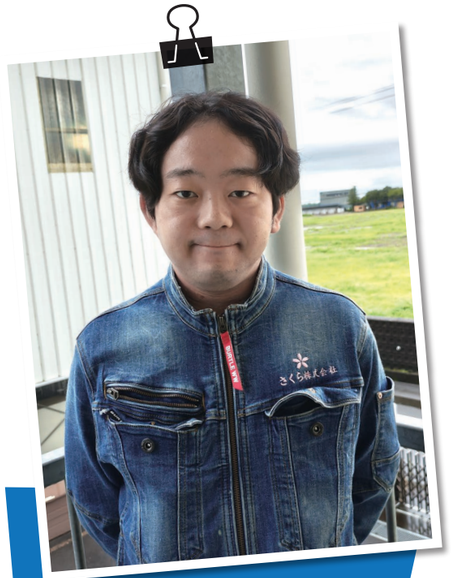
＼新入社員が語る／

半年間の「成長記録」



入社から半年と数ヶ月が経過し、着実に業務を覚えている新入社員たち。
製造部で奮闘する３名に、できるようになった仕事や今後の目標について伺いました。



製造部 関根（せきね） 生芽（いぶき）さん

現在の主な担当業務

現場仕事と第２工場での内作サポート

スムーズにできるようになった作業

図面を理解し、１人でも作れるように

最初は、図面を見てもどのような形になるか、いまひとつピンときませんでした。今ではそれがわかるようになり、スムーズに作れるようになってきました。
できるようになったときの達成感はすさまじく、自分１人でもできるんだと実感。この調子で作業スピードを上げ、会社の役に立てるようになりたいと、モチベーションも上がっています。

仕事で難しいと感じていること

現場でのハーネスを使った作業に、難しさを少し感じています。足場が悪い中、どこにフックをかけ、どこに足を置けば安全に作業できるかなど、考えることが多いためです。

課題を乗り越えるための工夫

意識しているのは、周囲の確認をしながら作業することです。さらに、先輩はどのようにして難しい作業に取り組んでいるのかを、よく観察して実践しています。

＼今後の目標／

目標は、作業スピードを上げること。まだ動きが遅く、周りに迷惑をかけてしまうことが多いため、効率よく作業できることを目指しています。また、安全確認をしっかり行い、安全第一で作業することも大切にしていきたいと思います。



製造部 大類（おおるい） 珠太（しゅうた）さん

現在の主な担当業務

先輩方のサポート

スムーズにできるようになった作業

簡単な切寸法の計算や部材の切り出し、図面を見ながらの組み立て、仮止めまでの作業が、手探りではありますが、できるようになってきました。うまくできたときには達成感が得られ、１日で多くのものを作れたときは嬉しさを感じます。

仕事で難しいと感じていること

重たいものを持つときや、サポートの加工がうまくいかなかったり作り直しになったりしたときは、大変さを感じます。

課題を乗り越えるための工夫

図面をよく見て何度も確認をして、完成しても再度細かく確認することです。

＼今後の目標／

まだ１人で動かしたことがないものや使ったことがないものを使って、１人でも使えるようになることを目指します。



製造部 宮本（みやもと） 純（じゅん）さん

現在の主な担当業務

第２工場でのきざみ・アトラー作業

スムーズにできるようになった作業

入社当初は何でも聞いてばかりで、同じ質問を何度も繰り返していました。しかし現在は、一度の指示で理解し、一人でこなせる作業が少しずつ増えています。特に現場の状況を把握する力がつき、決められた作業の改善にも取り組めるようになりました。日々の積み重ねによって、確実な成長を実感しています。

仕事で難しいと感じていること

スピードと環境に慣れることです。慣れてきたものの、いつどう変化するのかに対しての耐性や、気持ちなどの追いつきがまだまだで、それが課題だと思っています。

課題を乗り越えるための工夫

わからないことは周囲の方にしっかり確認して、疑問を解消していくことを意識しています。

＼今後の目標／

一つひとつマスターできるよう、今行っていることを継続するのが目標です。その後、したいことや目標が出てきたらどうしていくか考えようと思います。

私の失敗談



配管トラブルから得た「思い込み」を疑う重要性

「お客様の指示通りに動いたはずが、現場は大洪水に……」。思い込みがいかに大きなトラブルを生むか。今回は工事部の小幡主任に、正月工事で起きたピンチと、そこから得た「疑うこと」の重要性について伺いました。



工事部 主任
小幡（おばた） 光孝（みつたか）さん

印象に残る失敗談



正月工事での大洪水

2026年の正月、配管の切り替え工事で古い配管の水を抜く作業がありました。お客様から「ここに水を流してほしい」と指示されたマスがあり、そのマスへ水を流すことに。しかし、翌朝現場へ行くと、現場内が大洪水になっていたのです。実はそのマスは排水マスではなく、工場の油を溜めるマスでした。水が抜ける場所がなく、工場内の配管の水が集結して溢れ返ってしまい、お客様も巻き込む大トラブルに。水がなくなるまでの数日間は、その場所での作業ができなくなりました。

期せぬ事態への対応

お客様の協力と柔軟な作業切り替え

工場はお客様の施設であったため、お客様が総出で水を抜く方法を考え、対応してくださいました。私たちはその間、同じ現場内で別の配管の製作など、できる作業に回り、なんとか予定通りに仕事を進めることに注力。最終的に配管はすべて復旧し、工場も問題なく稼働しています。溢れた水も適切に処理し、現場は元通りになりました。

失敗から得た教訓

最大の敵は自分の「思い込み」

お客様の指示があったとはいえ、自分自身もそれが排水マスだと思い込んで疑わなかったことが一番の原因です。限られた期間の中で焦りもあり、流れ作業で進めてしまいました。よく確認していれば、油溜めだと気づけたかもしれません。この経験から、思い込みで動くことの恐ろしさを痛感し、周囲の状況をしっかり把握した上で仕事に取り掛かることの重要性を学びました。

若手社員へのエール

失敗しても投げ出さない



仕事において、思い込みで動かないことが大切です。そして、もし失敗して落ち込むことがあったとしても、投げ出さずにやり遂げることが一番重要だと思います。私も期間がない中で大失敗をし、深く落ち込みましたが、自分たちにできることを精いっぱいやろうと励まし合いながら乗り切りました。起きてしまった失敗を投げ出さず、そのとき自分にできることを誠実に取り組んでいく姿勢を大切にしてもらえたらと思います。



キッチンカー特集

選ばれ続けるための基盤作り

キッチンカーを展開する中で、地域の方々との温かい繋がりや、安定した運営に向けた課題が見えてきました。今回は担当の武藤さんに、県内での基盤作りに励む現状や、これからの目標について伺いました。

企画広報課 キッチンカー担当
武藤（むとう） 由利子（ゆりこ）さん



キッチンカーの担当業務

Instagramの更新や出店営業、場所の選定、メニュー考案など、キッチンカーの運営全般を担当しています。

@SHISHIMARUKITCHEN
Instagramはこちらからチェック！

印象的なエピソード

イベントでの温かい交流

直近で出店したイベントでの出来事が、強く印象に残っています。そこは、私が以前別のキッチンカーを運営していた頃から呼んでいただいている場所でした。今回も数あるキッチンカーの中から選んでいただき、温かく迎えてくださったことを本当に嬉しく思います。当日はカツサンドや唐揚げなどの定番メニューを提供し、地域の方々に喜んでいただきながら、堅実な成果を残すことができました。「今年も来たよ」「去年も買いに来たんだよ」と声をかけてくださるお客様もいらっしゃり、とても温かい気持ちになりました。





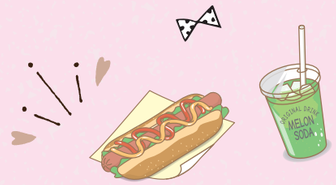
県外進出に向けた現状

今は県内での基盤作りを優先

半年前から「県外進出」の目標は変わっていません。ただ、夏から秋にかけてはイベントが多く、週に2～3回のペースで出店するなど慌ただしい日々を送っているため、まずは県内での基盤作りを優先すべきだと考えています。少しずつ定着しつつある段階だからこそ、さらに認知度を高め、運営を安定させることが今の課題です。満を持して県外へ飛び出すためにも、今は県内でしっかりと地盤を固めていきます。

運営上の課題

提供体制の見直し



現在は商品の廃棄を恐れるあまり仕込み量が控えめになりがちで、結果的にお買い求めのお客様に行き渡る前に完売してしまうことがあります。また、注文を受けてから提供するまでに時間がかかっている点も改善が必要です。天候やイベント内容によって売れ行きが左右されるため見極めが難しいのですが、今後は日持ちのするメニューに変更したり、調理に手間がかからない商品を開発したりと、工夫を重ねながら少しずつ改善していくつもりです。

今後の展望



ししまるくん

皆様に長く親しんでいただくためには、単に商品を売るだけでなく、どこに行っても選ばれ続ける存在でなければならないと感じています。これからもお客様との会話や笑顔を大切にし、「商品」でも「人柄」でも愛されるようなキッチンカーを目指します。